

授業概要

科目名		機能的構音障害					授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		2年	前期
【授業の目的・ねらい】 構音器官の機能解剖および構音動態を知り、臨床の基本となる構音を聴き取る力、表記する力を身につける。 また、機能的構音障害の基本的な評価と指導法を身につける。											
【実務者経験】 言語聴覚士として大阪発達総合療育センター、にこにこハウス医療福祉センターにて、発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 機能的構音障害の発現メカニズムや特徴を理解でき、評価・訓練とその基本的な技法を習得することができる。 臨床と国家試験に即した基礎的な知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚士が行う、機能的構音障害の基本的な評価と指導法を理解し実践できる。											
回数	講義内容									準備物(教材)	
1	機能的構音障害についての概要を説明できる										
2	発声発語器官の発生と機能解剖について簡単に説明できる										
3	正常構音の動態について理解する①										
4	正常構音の動態について理解する②										
5	主な構音障害の聴き取りができる①										
6	主な構音障害の聴き取りができる②										
7	構音障害の音声表記を理解できる										
8	構音の評価ができる①										
9	構音の評価ができる②										
10	構音の評価ができる③										
11	構音指導法が理解出来る①										
12	構音指導法が理解出来る②										
13	構音指導法が理解出来る③										
14	まとめ①										
15	まとめ②										
	定期筆記試験										
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料											
【準備学習・時間外学習】 授業の予習復習を適宜実施する											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											